

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月3日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22531062

研究課題名（和文） 特別支援教育における相談支援ができる教師育成プログラムと実践データベースの構築

研究課題名（英文） Construction of the teacher training program which can perform consultation support in special support education, and creation of an educational consultation case database

研究代表者

伊藤 良子（ITO RYOKO）

東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授

研究者番号：00143628

研究成果の概要（和文）：小中学校や高等学校、幼稚園の通常学級における特別支援教育の推進のために、現在最も課題とされている「保護者への相談支援」「専門機関との連携」の実施があげられている。本研究は、特別支援教育におけるすぐれた相談支援活動が実践できる教師を育成するために、その育成プログラム開発と相談実践をデータベース化して公開する検討を行った。

研究成果の概要（英文）：The most important issues among the special support education in an elementary school, a junior high school, a high school, and a kindergarten are "consultation support to a guardian", and "cooperation with a specialized agency."

In performing special support education, this research aimed at raising the teacher who can practice effective consultation support service. In order to achieve the purpose, development of a teacher training program and database creation of the consultation practice example were performed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：教育相談・カウンセリング

1. 研究開始当初の背景

（1）2009年度時点で、東京学芸大学教育実践研究支援センターの『特別支援教育』支援事業室では、「電話相談・教育相談」「学校支援・教育委員会支援」「セミナー・ワークショップ」「子ども・保護者・教師のインターネット支援プログラム」「学術連携」「資料室」の6つの研究事業を展開していた。その中で

「電話・教育相談」は保護者を中心とした相談支援を実施しており、年間600件の事例を扱っていた。また、「学校・教育委員会支援」では、センター所員が各々の専門分野・障害種別に応じて、巡回・訪問による専門相談を実施してきた。ここでは通常学級の教師への具体的な相談の進め方や学習・行動面などの支援方法に関する指導助言などが中心とな

っていた。(年間約 150 件) それらはいずれも事業概況に統計的処理を用いてまとめられたが、質的な分析はなされていなかった。

(2) 他方で、障害児を持つ保護者には①不安が強い②子育てスキルが不十分③子育て知識付注文④兄弟児の育児ニーズ⑤ネグレクト⑥精神障害⑦親夫婦不仲⑧経済的困難⑨過保護⑩身体疾患⑪身体的虐待⑫親自身の広汎性発達障害傾向⑬支援者への過剰依存などが支援ニーズとしてみられることが明らかにされた(第 56 回日本小児保健学会一般演題 27, 02-017)。学校フィールドにおいても、こうした保護者のタイプや支援ニーズに応じた相談支援が担任教師には求められているが、実際的にはその方法論は確立しておらず、それを育成するためのプログラムも少ない現状であった。一方、教師自身の心理教育的援助サービスや特別支援教育における関心が高まり、諸資格を取得して相談支援を展開したいと考える教員が急激に増加しているという社会背景もみられた。(特別支援教育士、学校心理士、臨床発達心理士の教師の資格取得者の増加など) そうした教師の学ぶ意欲や資格取得による専門性の向上を大学等の研究機関も積極的にバックアップすることの必要性もあった。理論や教育内容などを学習することと同時に、相談事例についても丁寧に専門的な知見や技術などから学び、相談の進め方、支援情報や報告書のまとめ方などを実際の・実践的に習得していくことが求められている。こうした教師支援や研修は、教育委員会・大学院などでも体系的に実施されているところはまだ少なかった。

2. 研究の目的

(1) 小中学校や高等学校、幼稚園の通常学級における特別支援教育の推進のために、現在最も課題とされている「保護者への相談支援」「専門機関との連携」の実施が挙げられている。本研究は、特別支援教育におけるすぐれた相談支援活動が実践できる教師を育成するために、その育成プログラム開発と相談実践をデータベース化して公開する検討をおこなう。具体的には、東京学芸大学教育実践研究支援センター『特別支援教育』支援事業室の研究事業を発展させて、①相談支援ができる教師育成プログラムの開発研究②これまでに経験した教師による相談事例の中で優れた実践(保護者タイプ・相談内容分析による)のデータベース化の実施を目指す。

3. 研究の方法

(1) 本研究では 2 つの研究班を中心に、各々において報告書やパンフレット、優れた相談実践事例集、研修用テキストと相談支援マニュアルの作成をおこなう。

<A 班>相談事例収集・分析・検討班

2010 年度：幼稚園、小・中・高等学校通常学級における特別支援教育で経験した相談事例に関する調査研究を実施する。加えて、東京学芸大学教育実践研究支援センターが実施している「電話・教育相談」「学校・教育委員会支援」でこれまでに経験した相談事例 1~2 万件) の整理・検討をおこなう。

2011 年度：実習研究(学校)フィールドの研究協力者による優れた実践事例の検討をおこなう。

2012 年度：教師による相談事例の中で優れた実践(相談内容分析と保護者タイプによる)の分析と整理・検討し公開する。

<B 班>相談支援ができる教師育成プログラム開発班

2010 年度：国内外における教師が行う教育相談活動・相談実践研・教師養成プログラムを収集し、内容の分析と整理をおこなう。

2011 年度：相談支援ができる教師育成プログラム(現職教員対象 1 年コース)の開発・検討をおこなう。

2012 年度：特別支援教育における相談支援活動のための研修テキストをそれまでの研究から得られた知見をもとに作成する。

4. 研究成果

(1) 2010 年度

<A 班>相談事例収集・分析・検討班

研究協力校の 15 小・中学校(小金井市、立川市、武蔵野市、荒川区、大田区)から、教師が相談支援活動の中で困難さを感じた「保護者」の特徴、「相談内容」、相談をすすめるにあたっての「障壁や難しさ」、「相談方法」などについて調査をおこなった。それらの中のうまくいった事例や困難であった事例について、具体的な実践内容等を抽出し、分析検討をおこなった。加えて、東京学芸大学教育実践研究支援センターに寄せられた「電話・教育相談」「学校・教育委員会支援」の相談事例を整理・分析・検討を加え、データベース化しまとめなおした。これらの調査から得られた知見を基に、「保護者のタイプ別の理解の仕方」と「相談内容のカテゴリー化」「効果的な対応方法」「具体的な相談支援の実践」を整理・分析・検討を加え、その成果の一部を「教師・スクールカウンセラーのための保護者対応マニュアル」(橋本・林監修、東京学芸大学刊行)にまとめた。これらを発展させ、「相談支援ができる教師育成プログラム」の開発に着手した。

<B 班>相談支援ができる教師育成プログラム開発班

全国国立大学障害児教育関連研究センターとの共同研究により、諸外国における教師がおこなう教育相談活動・相談実績研究・教師養成プログラムの検討をおこなった。あわせ

て、国内における相談支援活動に関する文献研究をすすめた。

(2) 2011 年度

<A 班>相談事例収集・分析・検討班

①事例のデータベース化

昨年度整理分析された教育実践研究支援センター事業である「電話・教育相談」「学校・教育委員会支援」の事例から、「相談内容の分類」「具体的な相談支援の実際」「効果的な相談方法」「保護者のタイプ分類」をすすめ、データベースの構築に取り組んだ。さらに、これらの事例からみいだされた知見から、本人の状態を正しく把握するためのアセスメントの視点や支援のポイントを教師向けに紹介することを目的とした、「幼児・児童をより理解するためのアセスメント&事例ミニハンドブック」を作成した。

②研究連携(学校)フィールドの研究協力者による「優れた実践事例」の検討(ケースレポートづくり)

本センターが取り組む地域連携支援事業の対象地域(小金井市、立川市、東久留米市)の小中学校、東京学芸大学附属特別支援学校との連携・共同研究に基づき、優れた実践の基準作りや効果的な相談について討議し、絞り込み作業をおこなった。

A 班によって抽出した事例の中から、本センターが取り組む地域連携支援事業の対象地域である小金井市や立川市、東久留米市の小中学校、東京学芸大学附属特別支援学校との連携・共同研究に基づき、優れた実践のポイント(教師にとって)や効果的な相談について討議を重ねた。

<B 班>教師育成プログラムの開発班

全国国立大学障害児教育関連研究センターとの共同研究(大分大学教育実践総合センター佐藤晋治教授、信州大学教育実践総合センター上村恵津子教授他)により、地域における教師がおこなう教育相談活動・相談実績研究・教師養成プログラムの検討をおこなった。あわせて、国内における相談支援活動に関する文献研究をすすめた。さらに、教員免許取得を予定している大学生を対象にした特別支援教育を学ぶ講義の中で、試作したパイロットプログラムを実施し、その効果を検証・分析に着手した。これらの研究結果を踏まえたうえで、「通常学級における特別支援教育を担う教師のための学芸大：養成&研修モデル 2012-特別支援教育スタンダードの構築に向けて」として教師養成プログラムのモデルを作成し、検討を加えた。

(3) 2012 年度

<A 班>相談事例収集・分析・検討班

教師による相談事例の中で優れた実践(保護者タイプ・相談内容分析による)のデータベース化とハンドブック化をおこなう。具体的な方法としては、収集した相談事例の中から

優れた実践であるとされたものをデータベース化し、それらを編集して「これ、すごい実践です! 教育相談における相談支援活動事例集」ハンドブックとして発行し、配布した。

<B 班>相談支援ができる教師育成プログラム開発班

特別支援教育における相談支援活動のための研修テキストと相談支援マニュアルの制作をおこなう。前年度までのプログラム開発の中で見いだされた研修内容や学修内容をまとめて、研修テキストと相談支援マニュアルを執筆・制作した。研究協力者によりこれらを評価してもらい、加筆修正を加えたのち、報告書を作成した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

①和泉綾子・田口禎子・三浦巧也・堂山亞希・林安紀子・橋本創一・池田一成・小林正幸、通常教育教員養成における特別支援教育プログラム構築のための基礎的な検討(2)一教師志望大学生の障害者理解と障害理解教育に関する調査、東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ、査読無、64 巻、2013、235-243

②田口禎子・林安紀子・橋本創一・池田一成・大伴潔・菅野敦・小林巖・三浦巧也・戸村翔子・村松綾子、通常教育教員養成における特別支援教育プログラム構築のための基礎的な検討一教師志望大学生の障害者理解と障害理解教育に関する調査一、東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ、査読無、63 巻、2012、303-318

③田口禎子・橋本創一・大伴潔・林安紀子・伊藤良子・菅野敦、発達障害電話相談のインテーク時の主訴内容にみる青年期・成人期の困り感に関する研究、東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要、査読無、7 巻、2011、pp1-9

④三浦巧也・橋本創一・林安紀子・池田一成・伊藤良子・大伴潔・菅野敦・小林巖、特別なサポートを必要とする児童・生徒に対する学校支援ボランティアに関する調査研究一教員養成系大学の学生が授業や体験を通して得た気づきの分析、東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ、査読無、62 巻、2011、270-285

[学会発表](計3件)

①林安紀子・是永かな子・浦崎武・川井紀宗、河合康、特別支援教育に関する学修プログラムの現状と課題一教員養成・現職研修・地域連携等の視点から一(自主シンポジウ

ム71)、日本特殊教育学会第49回大会、2011年9月23日—25日、弘前大学(青森)

- ②橋本創一・佐藤晋治・上村恵津子・熊丸高雄・渡邊貴裕、地域の実情に合った発達障害者支援・学校支援の事例・実践研究—教育フィールドにおける支援方法・アセスメント法・連携研究のあり方—、日本LD学会第20回大会、2011年9月17日—19日、(跡見学園女子大学) 東京
- ③三浦巧也・林安紀子・橋本創一・大伴潔・伊藤良子・菅野敦・池田一成・小林巖、特別な教育的ニーズのある生徒に関する電話相談事業報告、日本発達障害支援システム学会2010年度研究セミナー・研究大会、2010年12月18日、明星大学日野キャンパス(東京)

[図書](計4件)

- ①伊藤良子・橋本創一・小林正幸・大森直樹・菅野敦・大伴潔・小林巖・林安紀子・池田一成・石塚謙二、これ、すごい実践です!! 特別支援教育&教育相談における相談支援活動事例集、東京学芸大学教育実践研究支援センター、2013、32
- ②伊藤良子・橋本創一・小林正幸・菅野敦・大伴潔・小林巖・林安紀子・池田一成、教師・保護者・指導者のための特別支援教育と専門相談における『行動支援』の簡易逆引きマニュアル&事例による効果的なアドバイス集、東京学芸大学教育実践研究支援センター、2013、43
- ③橋本創一・伊藤良子・小林正幸・菅野敦・大伴潔・小林巖・林安紀子・池田一成・田口禎子・戸村翔子・三浦巧也・村松綾子、幼児・児童をより理解するためのアセスメント&事例ミニハンドブック、東京学芸大学教育実践研究支援センター、2012、46
- ④林安紀子・橋本創一・伊藤良子・田口禎子・戸村翔子・三浦巧也・村松綾子、教師・スクールカウンセラーのための保護者面接マニュアル Q&A、東京学芸大学教育実践研究支援センター、2011、40

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 良子 (ITO RYOKO)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：00143628

(2) 研究分担者 (無し)

(3) 連携研究者

橋本 創一 (HASHIMOTO SOICHI)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：10292997

菅野 敦 (KANNO ATSUSHI)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：10211187

大伴 潔 (OTOMO KIYOSHI)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：30213789

林 安紀子 (HAYASHI AKIKO)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：70238096

池田 一成 (IKEDA KAZUNARI)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・准教授
研究者番号：50293006

小林 巖 (KOBAYASHI IWAO)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・准教授
研究者番号：90305300